

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284050

研究課題名(和文) 宋人文集の編纂と伝承に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive study of the compilation and tradition of the Song dynasty collections

研究代表者

東 英寿 (higashi, hidetoshi)

九州大学・比較社会文化研究院・教授

研究者番号：90218686

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,500,000円

研究成果の概要(和文)：この4年の研究期間に、研究メンバーが発表した雑誌論文は25本、国内・国際学会で成果を発表した回数は31回、著書は8冊を刊行した。更に、本研究のテーマに即して、合計5回の宋代文学研究国際シンポジウムを開催した。シンポジウムのテーマは次の通りである。第1回「近世出版文化の幕開け - 宋代の文集編纂と流伝を巡って -」、第2回「宋人文集の形成と伝承」、第3回「版本時代のエディター - 詩人・親族・書肆 -」、第4回「文学テキストの編纂と流伝」、第5回「編纂と伝承 - 宋人文集研究 -」。シンポジウムを通して、海外の研究者と多くの意見交換を行い、研究を多角的に進めることができた。

研究成果の概要(英文)：Over the past four years, 25 journal articles were published by the members of the research team, 31 presentations were given regarding the research results at both domestic and international academic conferences, and eight books have been published. Additionally, five international symposia studying the literature of the Song dynasty were held, centering on the theme of this study. The themes of the symposia were as follows. 1. The beginnings of modern publication culture; literary compilation and circulation by the Song dynasty 2. Formation and tradition of the Song dynasty collections 3. Editors of the earliest book-printing era; poets/relatives/bookstores 4. Compilation and circulation of literary texts 5. Compilation and tradition; study of the Song dynasty collections These symposia enabled fascinating exchanges with researchers based overseas and gave impetus to the advancement of my own study given to me by the diverse perspectives I was exposed to.

研究分野：中国文学

キーワード：宋人文集 編纂 歐陽脩

## 1. 研究開始当初の背景

中国では宋代に入ると、書物の印刷が本格的に普及する。ここで言う印刷とは木版による印刷のことで、宋代は本格的な木版印刷の時代だと言うことができる。それ以前の手書きの写本から木版印刷本へという変化は、印刷による多くの複製が可能になり、それを受容する読者層が顕在化し、さらに情報伝達の速度が早くなるなど、当時の文化に大きな影響を与えた。このような文化背景の下、宋代には、文人たちが自覚的に文集(詩文集)の整理・編纂に取り組むようになる。その結果として、宋代及びそれ以降、多種多様な文集が次々と編纂され、様々な形で伝承されていく。本研究は、かかる文集の編纂と伝承のプロセスについて総合的に考察し、あわせて、そうした編纂・伝承を支えていた中国文人の文学観及び社会的文化的背景を明らかにしようとして構想した。

## 2. 研究の目的

従来の文献書誌学的視点に加えて、文学論的視点及び社会文化論的観点を有機的に連関させる形で、宋代に編纂された文集の編纂と、その後の伝承過程について総合的に考察することを主な目的とする。あわせて、宋代における文集の編纂やその伝承を支えていた中国文人の文学観及び社会的文化的背景についても明らかにすることを目指した。

## 3. 研究の方法

本研究は5名による共同研究である。基本は5名各自が定めたテーマに即して個人研究の形をとるが、毎年研究についての打ち合わせを行い綿密な連携をはかった。また期間中に毎年「宋代文学研究国際シンポジウム」を開催し、海外からの研究者と科研メンバーが研究の成果を発表した。海外から招請した研究者に対しては、予め入念に人選を行い、事前に希望のテーマを伝えて、研究発表を行ってもらった。5回のシンポジウムにより、海外研究者と科研メンバーで様々な意見交換を行い、研究課題を点から線へ、線から面へと発展的に捉える機会とした。

## 4. 研究成果

この4年間では、まず研究対象を正確に把握し、問題の所在を具体的に明らかにした。次に、5名それぞれが個別テーマに即して、関連資料を収集し、テキストを読み込むという基礎的作業から出発し、特に研究期間の後半にはアウトプットを重視してそれぞれの成果を国内学会や国際学会で積極的に発表した。

本科研の特筆すべき成果の一つとしては、「宋代文学研究国際シンポジウム」を5回開

催し、日本と海外、特に中国や台湾の学者が一堂に会し、関連する成果を持ち寄り討論したことである。このシンポジウムを通して、本研究のテーマの可能性を対外的に示し、本研究を大いに発展させることができた。

また、科研メンバーの浅見、東、内山、萩原が日本宋代文学学会の会長、副会長、理事等をつとめており、本科研主催の「宋代文学研究国際シンポジウム」を毎年の日本宋代文学学会大会において開催することができた。それによって、多くの宋代文学の研究者と交流し、討論できたことは本科研の成果の一つである。このように日本宋代文学学会とコラボすることで、日本における宋代文学研究者の本科研への関心を深めただけでなく、本科研メンバーも様々な研究者と意見交換や討論ができて、研究を一層進展させ、さらなる研究の可能性を探ることができた。

本研究期間には、科研のメンバーによって、25本の論文を発表し、国内外で31回の研究発表を行い、関連する著書を8冊刊行した。特に科研の成果をまとめて、『宋人文集の編纂と伝承』(中国書店)を刊行して研究成果を広く公表した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計25件)

- 1, 東 英寿、范仲淹の神道碑銘をめぐる周必大と朱熹の論争 - 歐陽脩新発見書簡に着目して、日本中国学会報、査読有、69、2017年、pp.94-108
- 2, 東 英寿、歐陽脩『近体学府』の成立とその伝承 - もう一つの『近体学府』 - 、風絮、査読有、14、2017年、pp.1-18
- 3, 萩原正樹、森川竹溪年譜補訂、学林、査読有、65、2017年、pp.82-116
- 4, 浅見洋二、蘇軾与楊万里詩中山水的擬人化、楊万里与南宋文化及紀念楊万里誕辰890年国際學術研討会論文集、査読有、2017年、pp.233-247
- 5, 内山精也、作爲職業的詩人 宋末元初詩壇發生了什麼?、四川大学学報(哲学社会科学版)、査読有、2017年第6期(総第213期)、2017年、pp.5-18
- 6, 東 英寿、『歐陽文忠公集』の編纂と日本への伝来について - 歐陽脩新発見書簡九十六編を手がかりとして - 、中国文学論集、査読無、45、2016年、pp.59-74
- 7, 東 英寿、關於歐陽脩全集伝入日本的考察、中華經典海外伝播、査読無、2016年 pp.194-205
- 8, 内山精也、南宋中期における自撰詩集の生前刊行について、日本宋代文学学会会報、査読有、2、2016年、pp.59-75
- 9, 内山精也、南宋後期的詩人、編者及書肆

- 江湖小集編刊の意義、新宋学、査読有、5、2016年、pp.166-185
- 10、中本 大、室町時代五山禅僧は歌壇・連歌壇に何をもたらしたか - 漢語「濫觴」の受容における五山禅林文壇の影響、禅からみた日本中世の文化と社会、査読無、2016年、pp.66-79
  - 11、萩原正樹、《詩苑》所収王国維詩詞十首考述、民国旧体文学研究、査読有、1、2016年、pp.353-404
  - 12、東 英寿、書簡よりみた周必大の『歐陽文忠公集』編纂について、日本宋代文学学会報、査読有、1号、2015年、pp.1-17
  - 13、東 英寿、歐陽脩書簡に見られる季節の挨拶をめぐって、地球社会統合科学、査読有、22-2、2015年、pp.15-22
  - 14、浅見洋二、楊万里と「詩債」日本宋代文学学会報、査読有、1、2015年、pp.94-115
  - 15、萩原正樹、『増統陸放翁詩選』所収「詞十九首」と村瀬栲亭、日本宋代文学学会報、査読有、1、2015年、pp.137-165
  - 16、萩原正樹、詞の沿革及び作法の概説、風絮、査読有、12、2015年、pp.135-160
  - 17、内山精也、メディア変革前後の詩人と自編詩集 - 初唐から北宋末まで -、中国詩文論叢、査読有、34、2015年、pp.21-40
  - 18、東 英寿、“鑑定士”劉克莊の詩文創作観、アジア遊学、査読無、180号、2014年、pp.94-103
  - 19、萩原正樹、漢詩文雑誌「緑竹新誌」竹溪詩拾遺、立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要、査読有、8、2014年、pp.89-126
  - 20、内山精也、王嵐、江湖詩人の詩集ができるまで 許裴と戴復古を例として、アジア遊学、査読無、180、2014年、pp.140-153
  - 21、浅見洋二、劉克莊と故郷 = 田園、アジア遊学、査読無、180号、2014年、pp.104-113
  - 22、中本 大、鶴に乗る「費長房」、論究日本文学、査読有、100、2014年、pp.53-63

〔学会発表〕(計 31 件)

- 1、東 英寿、南宋本『歐陽文忠公集』に見られる「続添」について、第5回宋代文学研究国際シンポジウム、2017年
- 2、東 英寿、関于和刻本《歐陽文忠公文集》、2017年歐陽脩国際学術研討会、2017年
- 3、東 英寿、《歐陽文忠公集》の編纂及其伝入日本の過程 - 以新發現歐陽脩書簡九十六篇為線索、經典的詮釈與衍化 - 第五屆人文化成国際学術研討会、2017年
- 4、東 英寿、日本漢籍與唐宋文化交渉、經典的詮釈與衍化 - 第五屆人文化成国際学術研討会、2017年
- 5、萩原正樹、《和晏叔原小山楽府》小考、東亞漢学国際学術研討会、2017年
- 6、浅見洋二、蘇軾と楊万里詩中山水の擬人化、楊万里与南宋文化及紀念楊万里誕辰890年国際学術研討会、2017年
- 7、浅見洋二、Texts from the Darkness, Darkness in the Texts: Su Shi's Literary Activities under Speech Regulation, 33. Deutscher Orientalistentag, 2017年
- 8、浅見洋二、蘇軾文集の編纂与尺牘、第五屆人文化成国際学術研討会、2017年
- 9、内山精也、作爲職業的詩人 以宋末元初爲中心、近世意象與文化轉型、2017国際学術研討會、2017年
- 10、内山精也、作爲職業的詩人 宋末元初詩壇發生了什麼?、第10届中国宋代文学国際学術研討会、2017年
- 11、内山精也、13世紀中国の詩壇に起きたこと 中国近世詩学史再構築の試み、早稲田大学中国文学会「第42回秋季大会」、2017年
- 12、内山精也、13世紀中國詩壇之變與中國近世詩學史的重構、復旦大学古籍整理研究所「古籍所前沿學術講座」、2017年
- 13、東 英寿、范仲淹の神道碑銘をめぐる周必大と朱熹の論争 - 歐陽脩新発見書簡に着目して -、日本宋代文学学会第三回大会、2016年
- 14、東 英寿、周必大の『歐陽文忠公集』編纂と歐陽脩新発見書簡、第288回中国文学芸座談会、2016年
- 15、中本 大、誰のための「五山文学」か(中世日本漢詩文研究の立場から)、第2回日本語の歴史的典籍国際研究集会、2016年
- 16、萩原正樹、詞譜の発展と唐宋詞研究、第4回宋代文学国際シンポジウム、2016年
- 17、萩原正樹、《詩苑》所収王国維詩詞十首、明清民国歌謡与民国旧体文学学術研討会、2016年
- 18、萩原正樹、詞律康熙刊本考弁、2016年詞学国際学術研討会、2016年
- 19、萩原正樹、「海鶴堂日記」の基礎的研究、福武財団 2016年度助成成果発表大会 2016年
- 20、浅見洋二、言論統制下の文学文本 以蘇軾詩歌創作為中心、第20回蘇軾国際学術研討会、2016年
- 21、浅見洋二、秘密的文本 再論言論統制下の文学文本、第3回宋代文学同人会、2016年
- 22、東 英寿、歐陽脩書簡に見られる季節の挨拶をめぐって、エコ・フィロソフィ学際研究イニシアティブシンポジウム、2015年
- 23、浅見洋二、「避言」と「瘦詞」 從『論語・憲問』与蘇軾詩禍論中国言論与権力、中国宋代文学学会第9届年会及宋代文学国際学術研討会、2015年
- 24、内山精也、宋人詩集の生前刊行について 士大夫と江湖詩人の異同が意味すること、第3回宋代文学研究国際シンポ

- ジウム
- 25、内山精也、印刷時代裡詩人意識的壇変  
關於南宋中後期詩人生前編刻自撰詩集  
的現象、第一屆「從誤讀、流變、對話  
到創意」國際學術研討會、2015年
  - 26、内山精也、媒体变革前後的詩人与詩集  
唐宋詩人与自撰詩集、第一屆中国古  
典文学高端論壇、2015年
  - 27、内山精也、南宋中期自撰詩集の生前出版  
唐宋詩人与自撰詩集、中国宋代文  
学学会第9屆年会及宋代文学國際學術研  
討會、2015年
  - 28、中本 大、中世漢学および五山禅林文学  
を捉えなおす「日本中世文学史」の新  
たな構築のために、和漢比較文学会特  
別例会、2015年
  - 29、東 英寿、書簡より見た周必大の『歐陽  
文忠公集』編纂について、第2回宋代文  
学研究國際シンポジウム、2014年
  - 30、浅見 洋二、宋編宋人文集と墨蹟・碑刻  
南宋における蘇軾・黄庭堅詩注の編纂  
を中心に、第1回宋代文学研究國際シ  
ンポジウム、2014年
  - 31、浅見 洋二、中国詩歌中的兒童与童年  
從陶淵明到陸游、楊万里、中国詩学研  
究前沿國際論壇（招待講演）、2014年

〔図書〕(計8件)

- 1、東 英寿(編著)、内山精也、浅見洋二、  
中本大、萩原正樹、中国書店、宋人文集  
の編纂と伝承、2018年、全353頁
- 2、浅見洋二、復旦大学出版社、文本的密  
碼 社会語境中的宋代文学、2017年、全  
310頁
- 3、内山精也、復旦大学出版社、廟堂与江湖  
宋代詩学的空間、2017年、全309頁
- 4、萩原正樹、中国芸文研究会、「詞譜」及  
び森川竹溪に関する研究、2017年、全  
736頁
- 5、萩原正樹、風間書房、森川竹溪『詞律大  
成』本文と解題、2015年、全560頁
- 6、浅見洋二・高橋文治・谷口高志、大阪大  
学出版会、皇帝のいる文学史 中国文学  
概説、2015年、全276頁
- 7、内山精也(編著者)、勉誠出版、南宋江  
湖の詩人たち 中国近世文学の夜明け、  
2015年、全280頁
- 8、東 英寿、花木欄文化出版社歐陽脩研究  
新見 新發現書簡九十六篇、2015年、全  
170頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：

種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

東 英寿(HIGASHI, Hidetoshi)  
九州大学・比較社会文化研究院・教授  
研究者番号：90218686

(2) 研究分担者

萩原 正樹(HAGIWARA, Masaki)  
立命館大学・文学部・教授  
研究者番号：20250532

内山 精也(UCHIYAMA, Seiya)  
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授  
研究者番号：20275019

浅見 洋二(ASAMI, Youji)  
大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号：70184158

中本 大(NAKAMOTO, Dai)  
立命館大学・文学部・教授  
研究者番号：70273555

(3) 連携研究者 なし

( )

研究者番号：

(4) 研究協力者 なし

( )